

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：17301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652192

研究課題名(和文) 多元的医療行動の民族誌的記述とその活用に関する実証的・理論的研究

研究課題名(英文) Study on Ethnographic Description of Pluralistic Medical Behavior

研究代表者

増田 研 (Masuda, Ken)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科・准教授

研究者番号：20311251

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：2年間の調査期間中、アフリカ各地における多元的医療状況とコミュニティーヘルスの関係に関する具体的資料を手に入れることができた。対象地域では数多くの保健プログラムが導入されているが、とりわけ村落部において土着の「医療」的知識と観念が人々の生活と深く結びついていることが改めて確認された。多元的医療状況においては近代医学も選択肢のひとつに過ぎず、保健介入において多元的医療状況の質的把握は不可欠である。

研究成果の概要(英文)：Through the investigations among countries in Africa, qualitative and quantitative materials on pluralistic medical condition and community health were collected. Indigenous medical knowledge still strongly define people's medical behavior and practice in rural area even though health interventions are conducted by development sectors. among those people living in rural area where modern medicine is a mere component of pluralistic medical environment, ethnographic and qualitative research possibly provide local-folk knowledge for contributing to social development.

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：医療人類学 医療多元論 民族誌 混合研究法 アフリカ マラリア

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進んでいる現在、国境を超えた相互関係の機会が増えるにつれて、多くの社会に多様な文化的変化が生じている。とりわけ低開発国においては近代化の進行と土着の文化・伝統の相克、外来文化の流入に伴う文化的な混交状況が発生している。国際保健の分野においても同様である。多くの保健医療計画が近代医療知識に基づいているものの、すべての地域でそれが受容されているわけではなく、実際には民間療法や伝統医療もまた人々の生活の中に深く根付いている。このようにひとつの社会に複数の医療システムが多元的に、多層的に共存する状態を本研究では「多元的医療状況」、その状況下で多様な選択肢の中から住民が現地の脈絡において適切と判断する医療選択を「多元的医療選択」と呼ぶ。

本研究課題では、そうした複数の医療知識体系の共存状態を民族誌的な方法によって記述し、その地域におけるローカルでイーミックなグラウンデッド・セオリー (Grounded Theory) として提出する。そのうえで、そのローカルな医療選択行動の在り方を健康開発プログラムに取り入れる方途を探るべく、CHW の役割と意義に着目して検討する。

## 2. 研究の目的

1. アフリカ諸地域における多元的医療状況の記述と解明のために民族誌的方法論を採用する。
2. 調査においては観察とインタビューを中心にした質的調査法を採用し、文化社会的背景と歴史的脈絡に力点を置いた記述を行う。こうして得られたデータを「ローカル=イーミックな一般論」として提示する。
3. 上記の方法の採用によって提示された「ローカル=イーミックな一般論」が、地域医療や健康開発、保健プログラムにおいてどのように活用しうるのかという問題について、とりわけコミュニティー・ヘルス・ワーカー (CHW) の意義に注目しつつ理論的な検討を行う。

## 3. 研究の方法

### 文献サーベイによる方法論の検討

国際保健、保健プログラム、質的研究法などに関する方法論的検討のために、文献サーベイを行う。

### 現地調査

コミュニティーヘルスワーカーの配置増強による保健プログラムが実施されている国として、エチオピアとブルキナファソを対象地として選定し、現地調査を行う。実施対

象地ならびに調査方法は以下の通りである。

### A. 実施対象地

対象地域はエチオピア連邦共和国ならびにブルキナファソの村落地域とした。いずれの対象地においても現地保健省 (局) および連携実施機関である国際協力機構 (JICA)、ブルキナファソ健康科学研究所 (IRSS) に調査への協力を仰いだ。

- (1) エチオピア連邦民主共和国アムハラ州において、アムハラ州保健局と国際協力機構が連携して進める感染症対策強化プロジェクト実施サイトのなかから、コミュニティ強化プログラム対象となっている村落を選定した。
- (2) ブルキナファソ、ナノロ近郊の2つの村落を対象に、マラリアへの健康希求行動の調査を実施した。

### B. データ収集方法

いずれの調査地においても、医療従事者、コミュニティーヘルスワーカー、村落居住者などを対象としたインタビュー調査を実施した。

## 4. 研究成果

- (1) 本研究における検討を通じて、多元的医療状況に関する探究を社会開発に応用するにあたり、質的調査データと量的調査データの適切な組み合わせと結果提示の方法を模索することが必要であることが改めて確認された。すでに研究手法としての混合研究法 (mixed method) には研究の蓄積もあり、多くの研究者が導入しているものの、社会開発のためのエビデンスとして質的データが積極的に参照されるには至っていないと考えられる。民族誌的知見を収集することには、1. 知られざる変数の発見、2. 結果を文化的・社会的脈絡において解釈するコンテキスト化、という2つの利点があるが、この認識が浸透し方法論として支持を得るには時間がかかるであろう。
- (2) エチオピア北西部、アムハラ州における民俗的病いとコミュニティーヘルスの関連に関する調査を2011年から2012年にかけて実施した。その成果は上村知春の修士論文 (保健普及員による知識の伝達と住民の行動変容: エチオピア・アムハラ農村部における「有害な慣習」をめぐる人類学的研究、長崎大学大学院国際健康開発研究科、2012年) および学会発表 (2012年日本ナイル・エチオピア学会、2012年日本国際保健医療学会) にまとめられた。また学会誌への投稿を準備している。土着の観念に支えられた民俗的病い (folk illness) に関して、住民の間では広く知られているものの、コミュニティーヘルスワーカーによる知識の普及や指導により、徐々に薄れ

つつあることが確認された。保健介入にあたっては、土着の観念に精通した保健普及員による「知識の翻訳」が有効であることが示されたといえよう。

- (3) ブルキナファソ中西部、ナノロ近郊の2つの村においてマラリア罹患時の治療希求行動の調査を行った。対象となったのは、保健介入の度合いが強いG村と、ほとんど介入の無いK村である。世帯調査ならびにケースヒストリーの収集により、介入が無く医療施設も存在しないK村において伝統的治療希求行動が支配的であることが明らかになるとともに、保健介入の強いG村においても、住民の多元的医療行動のなかでは近代医療はその一部に過ぎないことが明らかとなった。この調査の成果は和田直美の修士論文(ブルキナファソ村落部におけるマラリア治療選択とその文化的意味、長崎大学大学院国際健康開発研究科、2011年)に結実したほか、学会発表にもその知見が盛り込まれた(2013年日本国際保健医療学会)。
- (4) 研究分担者である宮地歌織(2011年度)、波佐間逸博(2012~13年度)は、それぞれケニアおよびウガンダにおける調査成果をまとめた。宮地はケニア西部における女子割礼(FGM)を母子保健の脈絡において探究したが、この調査は長崎大学が実施する人口動態サーベイランス(HDSS)による量的データと、宮地によるインタビュー調査の組み合わせによって行われており、方法論的に注目に値する。波佐間はウガンダ東部の牧畜民カリモジョンにおけるヘルスケアの導入を、ローカルな実践と開発介入の組み合わせによって行う新たな取り組みに焦点を当てることで探究した。広範囲に居住する牧畜社会では、都市部や定住農耕民社会と比較して保健プロジェクトの介入や定着が難しいとされてきたが、カリモジョンでは伝統的な医療実践を取り入れた新たなプロジェクトが創出されており、多元的医療状況の多元性を土台とする斬新な試みとして注目される。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

1. 増田 研「国際保健分野における文化人類学的アプローチ:ローカルとグローバルの接合地点で調停役を買ってでる」『公衆衛生誌』59(3): 189-192、2012年、査読有
2. 波佐間逸博「東アフリカ牧畜社会におけるヘルスケア:ローカリティにもとづく医療支援に向けて」『アフリカ研究』83: 17-27、2013年、査読有
3. 宮地 歌織「Cultural Transformation: Sociocultural Aspects of Female

Circumcision among the Gusii People in Kenya」*Journal of Nilo-Ethiopia Studies*, vol. 19, pp.1-15 (印刷中)

[学会発表](計 9 件)

1. 増田 研・上村知春「「有害な慣習」をめぐるポリティクス:アムハラ州西ゴジヤムにおける民俗的病いと治療行動の変容」日本ナイル・エチオピア学会学術大会、於:京都大学稲森財団記念会館、2012年4月22日(ポスター発表)
2. 宮地歌織「HDSS(人口動態システム)における妊産婦に関する人類学的調査について ケニア・ピタ県を事例として」日本ナイル・エチオピア学会学術大会、於:京都大学稲森財団記念会館、2012年4月22日(ポスター発表)
3. 増田 研・上村知春「乳歯の下痢」認識の相克:エチオピア、アムハラ州における民俗的病いに対する行動変容」日本国際保健医療学会第27回学術大会、於:岡山大学津島キャンパス(査読付・ポスター発表) 2012年11月2日
4. 増田 研「Anthropologists' Struggle and Challenge: My Experience in a Global Health Department of Nagasaki University」Antwerp Institute of Tropical medicine (Belgium), 2013年2月19日
5. 波佐間逸博「ヘルス・ケアの果てる場所、東アフリカ牧畜社会」日本アフリカ学会第50回学術大会、2013年5月25日、東京大学
6. 増田 研「グローバルヘルスにおける「健康」:医療人類学の視点から」第31回日本国際保健医療学会 西日本地方会ユースフォーラム「グローバルヘルスにおける「健康」:医療人類学の視点から」2013年3月2日、於:大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学術交流会館
7. 増田 研・平野志穂・和田直美・上村知春・橋場文香「多元的医療状況に対する民族誌的アプローチ:長崎大学国際健康開発研究科における医療人類学的調査の取り組みから」第28回日本国際保健医療学会学術大会、於:名城大学(査読付・ポスター発表) 2013年11月2日
8. 増田 研「アフリカにおける未来の高齢化に対する Qual+Quant アプローチ:デザインと展望」第28回日本国際保健医療学会学術大会 自由集会「グローバルエイジングへの国境なき挑戦」、於:名城大学、2013年11月3日
9. 増田 研「Doing ethnography: mapping medical issues in certain cultural settings」Qualitative and Mixed Methods in International Health Research, Institute of Tropical Medicine Antwerp, 2014年2月10日

研究者番号：

〔図書〕(計 2 件)

1. 増田 研「数字の力、民族誌の力」『フィールドプラス』9 (特集「生老病死は測れるか?」 pp.4-5、2013年、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
2. 宮地歌織「人の誕生を測るモノサシ」『フィールドプラス』9 (特集「生老病死は測れるか?」 p.7、2013年、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

増田研 (MASUDA, Ken)  
長崎大学・大学院水産・環境科学総合研究  
科・准教授  
研究者番号：20311251

### (2)研究分担者

宮地歌織 (MIYACHI, Kaori)  
佐賀大学・男女共同参画推進センター・助  
教  
研究者番号：40547999

波佐間逸博  
長崎大学・国際連携研究戦略本部・助教  
研究者番号：20547997

### (3)連携研究者

( )